

「論点整理 4 今後議論すべき論点」への
補足意見

才能のある子の指導・支援の視点から対応の充実を

*特異な才能のある児童生徒

松村 暢隆

② 特異な才能を有する児童生徒が学校生活に困難を感じている場合の対応策 (教室・学校内での対応策)

ア 学級経営・生徒指導・キャリア教育等に関する方策

イ 適切なサポートを受ける形で困難を解消できる方法

● アメリカでの「才能児」のためのキャリア教育から示唆される課題

*才能が特定の公式の基準で識別された児童生徒

- 保護者や教師、社会からの期待に敏感：過大または過小な期待
 - とくに女性の科学技術分野のキャリアについて (CSTI：ジェンダーギャップ)
 - ポジティブな役割モデルが必要
- 小学校段階からポジティブな自己概念形成が重要：強み・弱みを知る
- 現実問題解決の学習体験から、職業とのつながりを理解
 - 多様な分野の専門家が役割モデルやメンターとして関わる
- 多才(multipotentiality)のため進路・職業を絞りにくい場合も
 - 特定領域への興味・情熱の尊重を助言

● アメリカでの「才能児」のためのスクールカウンセリングからの示唆

*才能が特定の公式の基準で識別された児童生徒

領域	学業	能力・興味・学習スタイルに応じた学習の個性化を担当教師と計画
	進路・職業	進路決定に助言。固定的職業を薦めず広い選択肢・モデルを提供
	人格・社会	完璧主義，自己尊重の低下，からかい，いじめ，不登校に対応
形態	治療的	社会情緒的問題を発見し，問題解決や危機介入を図る
	発達・予防的	才能児が独自の課題に挑戦して自己実現をめざすことを促す 心理的ニーズを把握して発達を支える学校・家庭環境を整える

(松村,2021より作成)

- スクールカウンセラーに、才能のある子の支援の視点・知識が必要

● 才能/障碍のために困っている才能のある子への指導・支援

- ① ② 特異な才能を有する児童生徒が学習活動に困難が生じて/学校生活に困難を感じている場合の対応策 (教室・学校内での対応策) (学校外での対応策)
(障害を併せ有する場合の対応策)
 - ・特に、才能と障害を併せ有する場合の対応としてはどのようなものがあるか。
- ③ ①及び②を可能とするために必要な環境や体制
(保護者へのサポートと 社会に対する理解啓発)
 - ・特定分野に特異な才能のある児童生徒の保護者へのサポートや社会の理解を醸成していくために、どのような方策があるか。
- 通級指導・特別支援学級でも個別最適/主体的な学びを共通の基盤に
(アメリカでは才能/障碍支援がMTSS(3段階支援)でインクルーシブに連動)
- 学校ごとの実践の開発を、教育委員会が支援
 - 才能/障碍に起因する困難によって支援上、個人を種別区分しない
(ただし障碍種固有に必要・有効な対応には留意)
- 保護者の参画により、学校で才能の困難に配慮される仕組の検討を

- ① ② 特異な才能のある児童生徒が学習活動/学校生活に困難がある場合の対応策
③ ①及び②を可能とするために必要な環境や体制

(才能や特性の見だし) ▼広く一般の認識が必要！

- 「特異な才能のある児童生徒」を定義づけて予め特定しない
 - …「才能児/ギフテッド」と呼ぶ個人を見いだす**認定**(identification)は行わない
(才能と学習困難/障害を併せもつ児童生徒も予め「2E」だと認定しない)
- [参照] 3 検討の方向性(1)全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
何らかの特定の基準によって才能を定義し、定義に当てはまる児童生徒のみを「特異な才能のある児童生徒」と取り扱うことは、本有識者会議においては行わない。
- 敢えて**才能の定義**：通常より優れた能力、創造性、強い意欲・熱中(大綱的)
 - **個別の実践**の目的に適った**才能行動・特性の識別**(identification)、**アセスメント**は、「才能児」と名づけずに活用すべし 例：入試で高学力
 - 既存/新規の個別実践の**実施者**が、公正で妥当な**識別方法**を利用・開発
例：ジュニアドクター育成塾への参加：興味で先着順（広義の才能教育）
→優れた成果で高度プログラムへ個人選抜（狭義の才能教育）

(教育委員会・学校関係者の理解啓発)

(施策の普及方策)

- ・ 先行的な優れた実践を、全国に普及させていくための方策として、例えば、国において、教育委員会の規模や立地にも留意しながら実証的な研究を行い、好事例を蓄積していくことについてどう考えるか。
- ・ 学校内・学校外の既存/新規の個別実践が、教育委員会の支援により連携して、才能の識別や指導・支援のノウハウを把握・蓄積
 - 例：＜民間事業者による取組①＞鎌倉市 かまくらULTLAプログラム「個才」の把握
- ・ 既存の実践活用／新規研究開発的な取り組み
- ・ 地域での連携から、全国的な協議会、支援プラットフォームを形成
 - ・ 好事例の情報を集約・蓄積
 - ・ 才能行動・特性の識別方法、才能に配慮した指導・支援の情報発信、普及を目指す 教育データ利活用(情報・データ連携)の在り方を検討